

「第13回九州自然歩道ミーティング」



制作：(一社)九州自然歩道フォーラム

ミーティング概要

〔イベント目的〕

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、今まで九州管内全域の長距離自然歩道に係る行政間における連絡調整等の唯一の場であった九州自然歩道ミーティングが開催できなかった。しかし、九州自然歩道が2030年に全線開通50周年を迎えるにあたり、今般、約5年ぶりに当ミーティングを開催。今回のミーティングは、ここ5年間の各主体の取組や課題について共有するとともに、みちのく潮風トレイル等の先進地の事例やハイカーの生の声から学びつつ、50周年に向けた今後の取組方針等について議論を深めることを目的とした。



〔開催概要〕

○日 時：2025年1月23日(木)13:00～17:00

○会 場：熊本地方合同庁舎A棟 会議スペース

○主 催：環境省九州地方環境事務所 (一社)九州自然歩道フォーラム

〔出席者〕 出席者 39名 WEB参加 8名 ※過去12年で初めて7県の担当者が集まる会議となった。

環境省九州地方環境事務所	3名	長崎県自然環境課	2名
環境省福岡事務所	1名	熊本県自然保護課	3名
環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所	6名	大分県自然保護推進室	2名
環境省佐世保自然保護官事務所	1名	宮崎県自然環境課	2名
環境省五島自然保護官事務所	1名	鹿児島県自然保護課	3名
環境省雲仙自然保護官事務所	2名	(株)ボーダレス・ジャパン	1名
環境省霧島錦江湾国立公園管理事務所	4名	阿蘇山道整備	1名
環境省えびの管理官事務所	1名	宮崎ハイキングクラブ	1名
福岡県自然環境課	2名	(一社)九州自然歩道フォーラム	5名
佐賀県有明海再生・環境課	2名		

〔ゲスト〕

相澤久美氏 NPO法人みちのくトレイルクラブ常務理事兼事務局／(一社)トレイルブレイズハイキング研究所常務理事

2015年よりみちのく潮風トレイルの管理運営計画策定に携わり、NPO法人みちのくトレイルクラブを立ち上げ現在に至る。トレイルブレイズハイキング研究所の常務理事として、各地のロングトレイルに携わる。2023年、中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会所属 専門委員及び、一般財団法人自然公園財団 理事就任。

根津貴央氏 ハイカー／ライター

アメリカのロングトレイル「パシフィック・クレスト・トレイル(PCT)」や「アパラチアン・トレイル(AT)」を始め、グレート・ヒマラヤ・トレイル(GHT)を踏査する日本初のプロジェクト『GHT Project (www.facebook.com/ghtproject)』を仲間と共に推進中。著書『ロングトレイルははじめました。』(誠文堂新光社)、『TRAIL ANGEL』(TRAILS)。

〔議事次第〕

13:00	開始	冒頭挨拶 則久雅司 九州地方環境事務所長 ゲスト紹介 (相澤久美氏、根津貴央氏)
13:05	取り組み共有	○取り組み報告 ・九州地方環境事務所「ロングトレイルの維持管理システム～」含む ・九州7県
14:25	取り組み共有 2	・九州自然歩道フォーラムの取組・課題 ・先進地事例の紹介 (相澤氏、根津氏)
15:25	次の5年間に向けて	○副代表理事からウェルネスツーリズムの提案 ○九州地方環境事務所と九州自然歩道フォーラムの思い ○テーマ別グループディスカッション 1) 進め方説明 2) 個人でA4紙に書き出す 3) テーマ別グループづくり 4) グループごとに話し合い ○グループごとの発表
16:55	最後の挨拶	野元尚巳 (一社)九州自然歩道フォーラム代表理事

ミーティング内容

〔始めの挨拶〕

環境省九州地方環境事務所所長の則久雅司氏より、開会の挨拶。環境省では、みちのく潮風トレイルに始まり、2024年に50周年を迎えた東海自然歩道の再興に力を入れており、次に50周年を迎える九州自然歩道があるため、今回、本会が開催できたことに感謝を申し上げていただいた。

〔環境省九州地方環境事務所・九州7県からの報告〕

九州地方環境事務所からは「ロングトレイルの維持管理・運営システム構築の考え方」を紹介し、直轄施設の整備や雲仙でのトレイル活用、阿蘇での登山道整備イベント、霧島錦江湾での携帯トイレ普及啓発等の取り組みを報告した。一方で、歩道や標識の老朽化、維持管理体制の構築、広報不足、二次交通の整備、利用者負担の仕組みづくり等が課題として挙げられた。各県の取り組みとして、福岡は親子ハイクイベントや日帰りマップの作成、佐賀はWEBサイト「さがみち」で情報発信を実施。長崎は県としての取り組みは少ないものの、関係機関が島原半島でハイキングイベントを展開。熊本では人吉球磨地域で復興・活用事業を推進し、大分は維持管理を実施。宮崎は先進事例として、業務の一括委託による効率的な維持管理とマップブック制作を行い、地域連絡会の開催。鹿児島では課長自ら歩いて現場を確認し、維持管理システムの構築と活用促進に向けた取り組みを進めている。



各県様々な取り組みを通して、歩道の管理をしてきている。

〔(一社)九州自然歩道フォーラムからの報告〕

島原半島でのイベント(Newsletter Vol.2)や企業との連携案件、そして旅行サービス手配業への登録からランドオペレーター業務実施を報告。インバウンド専門の旅行会社と提携し、九州各地の知見と連携を活かし、海外ゲストのプランニングを実施。今年度は雲仙や鹿児島への送客を行っている。



みちのく潮風トレイルは、モデル事例のひとつ。

〔ゲストからの先進事例報告〕

相澤氏より、みちのく潮風トレイルの現状や運営計画、憲章の重要性が語られ、九州自然歩道でも今後推進していく上での必要性を話していただいた。また根津氏より、海外のロングトレイルと九州自然歩道との比較考察がなされ、「いわゆるロングトレイルとは違う文化で育ってきた九州自然歩道は、九州自然歩道としての個性を活かした方が良い」と話していただいた。

〔グループディスカッション〕

副代表理事の山口よりウェルネスツーリズムの提案、事務局長の福島及び国立公園課課長の渡邊氏の想いを共有し、九州自然歩道憲

章の策定や、2030年の50周年記念に向けた取り組みについて説明が行われた。その後、参加者同士が話し合いたいテーマを出し合い、自然と4つのグループが形成され、意見交換を実施。以下、各グループの発表まとめ。

「管理体制・整備」では、5年後の体制構築を目指し、フォーラムがその中心になる。環境に配慮した整備の重要性や11月に登山道整備シンポジウムが企画されていることが発表された。

「情報発信」では、認知度向上が課題として挙げられ、WEBサイトのアップデートやハイカーとの連携、学校教育での活用を検討。また、地域住民への認知をどう高めるか、予算の限られた中でのデジタル化の進め方について議論がなされた。

「ルートのあり方」では、カヤックや自転車ゾーン設定の可能性等について議論しつつ、まずは九州自然歩道がどうありたいか、統一的なビジョン・管理方針を定めることの重要性を共有した。

「運営」では、九州自然歩道を地域の清掃活動や学校教育に取り入れること、民間との連携方法について意見が交わされた。

議論の共通点として、「みんなで推進すること」の重要性が挙げられ、行政・民間・地域が協力して取り組む必要性が再確認された。そのため、統一的なビジョンや運営方針の策定が不可欠であり、2030年の50周年までに具体的な施策を進めていくことが強調され、閉会となった。



皆さんの話したい話題を書いて、グループ作り。



グループで意見を出し合い、組織を越えた連携作り。